

生涯にわたって教員の成長を支える教員研修の在り方について ～教員研修の在り方検討会報告書～

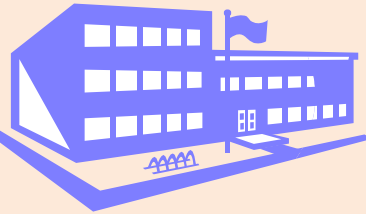
教員研修の改善に向けた基本方針 … 「学校拠点方式」の拡充と、県（教育研究所等）と福井大学（教職大学院）との連携強化による 校内研修を軸とした研修システムの確立

<方向性1> 個々の教員の資質能力の向上を学校全体の教育力の向上に
 教員研修の効果が、該当教員だけでなく、周りの教員にも波及し、学校全体の教育力の向上につながるよう、協働による校内研修を充実させる仕組みを構築

<方向性2> 教員の研修への意欲の向上
 教員のニーズの把握や既存の研修の精査等による研修内容の見直しと、研修履歴の整備等による研修をキャリアアップに反映できる仕組みの構築

<方向性3> 教員のキャリアやライフステージに応じた、知識・ノウハウの習得
 教員がキャリアやライフステージに応じて必要な知識等を習得できるよう、悉皆研修等の見直し（→教員の負担感の軽減への配慮）

学校拠点方式を活かした校内研修の充実



<学校拠点方式の利点>

- ・学校が抱える課題を大学等と協働して解決
- ・大学院生である教員だけでなく、周りの教員も巻き込んで、学校全体の教育力を向上

校内研修を支えるシステムを構築

指導主事・大学教員等による指導・助言体制の充実
 ⇒ 校内研修の質の担保

授業改善等の核となる校内リーダーのレベルアップ

管理職の意識改革、リーダーシップ、マネジメント力の向上

大学教員の指導（協働研究）

現職教員の派遣

福井大学教職大学院との連携の拡大

大学院入学金の助成
 教員研修の修士課程の単位への認定推進

福井県教育委員会・教育研究所

[学校拠点方式による教員の指導力向上を推進]

- コア・ティーチャー養成事業
- 授業名人の技継承事業
- 県立高校での公開授業・授業研究会の拡大
- 校内研修の指針の策定

校内研修を支援

指導主事や大学教員の指導の拡充

指導教員の資質向上

教員・所員を院生/教員として大学院へ派遣

福井大学教職大学院

[学校拠点方式による先進的な教師教育を実践]

- スクールリーダー養成コース
- 教職専門性開発コース

- 月間合同カンファレンス
- 集中授業（夏季休業等）
- 週間カンファレンス

- ラウンドテーブル
- 公開実践研究集会

- 県外大学等の研究者
- 異業種実践
- 海外大学等

管理職等の教員や教育研究所等の職員が大学院で院生/教員として、県内外の学校教員や国内外の研究者との交流を体験

校外研修の精選と内容の充実

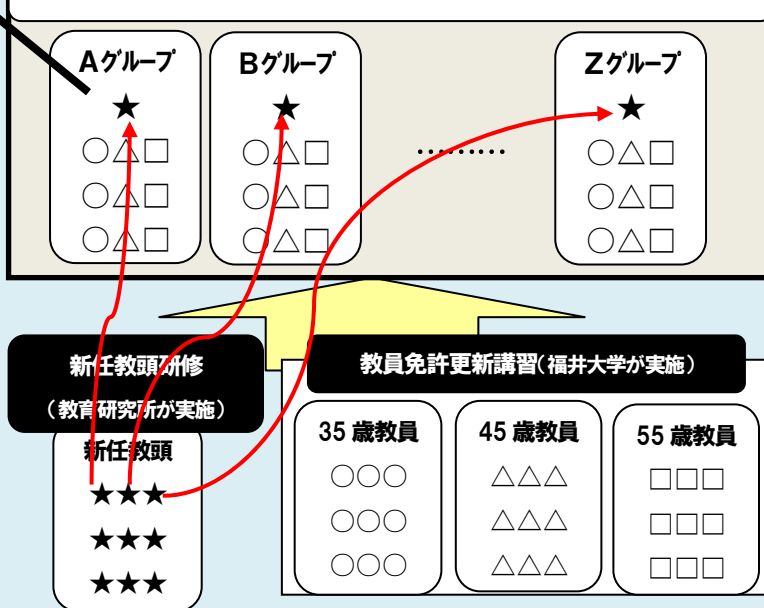
(教育委員会と大学との連携による教員研修の再構築)

基本研修(悉皆研修)の見直し

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初任者研修	校外					実践研究					実践研究		
	校内	(年間180時間以上) ○授業研究 ○一般研修											
5年経験者研修	校外		全体研修						全体研修			全体研修	
	校内	(年間を通した) 実践研究 → → → → → 教育実践記録の作成											
10年経験者研修	校外		共通研修									共通研修	
	校内	(年間15日間以上) ○一般研修 ○課題研究 → → → 課題研究レポートの作成											

新任教頭の傾聴力・コーチング力の向上

免許更新講習(グループ討論)と新任教頭研修の連結



異年代・異校種の教員グループでの学び合いを促進

教育委員会と大学との協働による教員研修プログラムの開発研究

- ミドルステップアップ研修の見直し
 中堅教員を対象としたミドルステップアップ研修について、学校での実践・省察の導入による通年型課題実践研修へと見直し（大学との連携のパイロットプロジェクトに位置付け）
 ⇒ 大学院単位を認定可能な講座として再編成
- 基本研修と大学院授業との連結
 基本研修の校外研修について、大学院授業と連結が可能な講座になるよう設計・開発

+

研修履歴の整備

資質向上の証としての「修士レベル化」の認定
 研修の受講を単位に読み替えることにより修士化を促進（時間的・経済的負担を軽減）

校内研修を通年型の課題実践研修とし、校外研修との関連付けを強調 ⇒ 研修の系統性・継続性を確保
 免許更新講習との重複解消等校外研修の精選 ⇒ 日々の教育実践の時間を確保（多忙感を軽減）
 校種・世代を越えたクロスセッションの導入 ⇒ 教員同士（先輩・後輩、同僚）の学び合いの気風を醸成